

内子座



藝於遊



内子座の土壁

令和7年度下半期に入り、素屋根が完成したことによって各所の解体工事が進んでいます。作業に対しかわら版の発行がおいつかず、後追いのような情報になっています（汗）。9月より壁の漆喰上塗りの解体が進んでいて、10月ではほぼ完了。今回は壁についてご紹介します。

右の図は、内子座内部の壁の色をおおまかに表現したものです。かわら版第8号でもお知らせしたように、内部は創建当初から3つの空間に色分けされていたことがわかります。

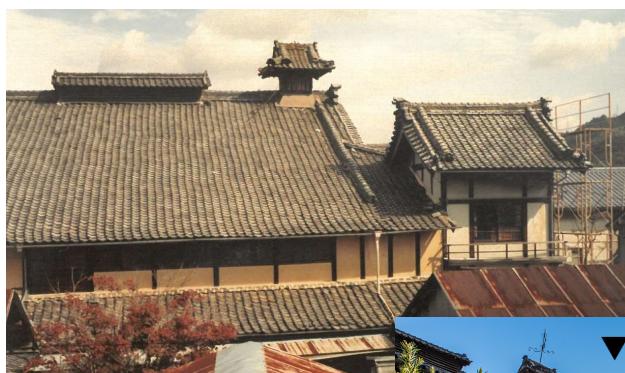
■舞台部分：黄色味のよどや漆喰

■客席部：淡い赤色漆喰

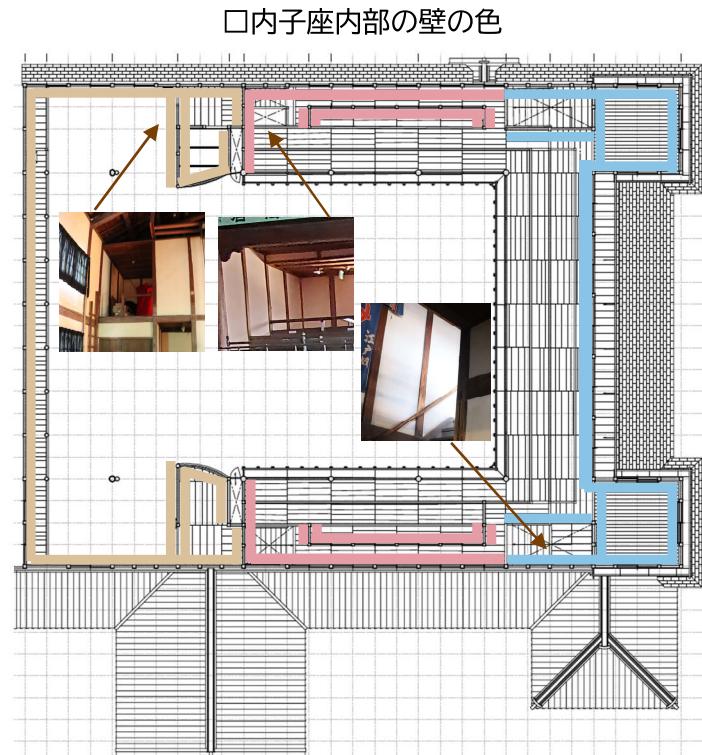
■木戸先部：あさぎ漆喰

客席は淡い赤色と華やかな色合いで仕上げられていて、「ハレ」の特別空間を表現したのかな、という推測もできます。

一方、外部の壁は、現在は統一して白漆喰で仕上げられていますが、昭和60年の復原改修工事以前の写真を見ると、黄色味のよどや漆喰で仕上げられていた部分もあり、昭和60年前後で外壁の色が変化していることがわかります。創建当時の写真はモノクロしかないのが残念です。



▲昭和58年頃の写真で西側を撮影したもの。檜の外壁は白いが、小屋本体部分は黄色味よどや漆喰で仕上げられていることがわかる。



大正の土壁

各部の解体が進むと、これまで隠れていた部分から創建当時のオリジナルと思われる壁が顔を出してきました。これらは可能な限り当初の上塗りとして残していく考えです。



▲写真左：内子座正面木戸先の絵看板を取り外し、その裏板を解体したところ。あさぎ漆喰塗の壁が出てきた。▲写真右：2階西側の外壁。下屋の際熨斗積みを解体すると漆喰上塗りが残存していた。写真ではわかりづらいが昭和58年頃の写真と同じ黄色味のよどや漆喰塗りである。